

こんなときは

新潟日報紙「健康」欄に読者の質問に答える形で連載

Q：娘が流産、次の出産の注意は

今春結婚した娘(25歳)が妊娠しましたが、残念なことに流産してしまいました。医師からは、1年くらい間をおいて妊娠するようにすれば大丈夫だと言われたそうです。健康な赤ちゃんを産むために、どんな注意をしたらよいのでしょうか。なお娘夫婦の血液型は夫(30歳)がO型(+)、妻がA型(-)です。

(三条市・H)

A：夫婦の詳しい血液型検査を

2つに分けて話してみましよう。まず一般的に自然流産は、全妊娠の10～20%にもみられます。特に妊娠初期の流産は、胎児自身の異常によるものが大部分で、母体のウイルス感染、染色体異常、着床不全などの原因が考えられますが、その原因を究明することは、ほとんど不可能と考えた方がよいでしょう。すなわち妊娠初期の流産は、自然界における一種の自然淘汰と考えられ、両親に流産の原因となるような、明らかな異常を認めることは、ほとんどないと考えてよいと思います。

次にご質問の文面から、夫血液型O型(+)、妻A型(-)とありますので、この夫婦間の妊娠は、RH不適合妊娠です。RH不適合妊娠の場合、夫の血球によって母親が感作されて胎児が障害を受ける可能性もでてきます。しかし、この問題は、妊娠中に母親の血液から、胎児に障害を与える可能性があるか否か調べることができますので、心配なく次の妊娠を考えてよいと思います。

今回の流産で、母親が感作されることは非常に少ない(5%以下)と思いますが、一度、間接クームス検査を受けてみて下さい。同時に夫婦のRH式の詳しい血液型を調べるのが大切です。

夫婦の年齢を考えますと、染色体異常などの子を出産する危険性は少ないと考えられますので、安心して妊娠してよいと思います。しかし流産の原因には、母体のウイルス感染症やトキソプラズマ症などが原因となることもありますので、次の妊娠の前に一度、これらの抗体の有無を調べることも大切です。